

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームシャルルまきの
(ユニット名)	南ユニット
所在地 (県・市町村名)	奈良県五條市大澤町5 - 25
記入者名 (管理者)	飯田明子
記入日	平成 20 年 2 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「普段の生活を大切に自分らしく暮らせる家」を理念に掲げ、パンフレットに記載し周知していただくようにしている。詳細については、重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念をワークステーションに掲げている。また、年毎の目標も決め、日々のミーティングや定例会議などで話し合いの場を持ち、日々実践されるように取り組んでいる。	日々のケアに迷った時、困った時、悩んだ時などに、理念を通して統一した考え方ができるようなものにしていきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族等には契約時や面会時に、グループホームの理念を説明し、理解してもらっている。地域の方に対しては、運営推進会議にて説明している。	運営推進会議の委員会のメンバーより地域にむけて情報発信してもらいグループホームの理解をしてもらえようしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所の人と接する機会というものが少ないが、隣接している介護保険施設やケアハウスの入所者が時々訪問される。	近隣の中学校の授業の中で隣接している介護福祉施設へ毎月訪問し交流している機会があるので、グループホームにも訪問してもらい交流の場が持てるようにしていければと思っている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	法人内の行事として「夏祭り」や「秋穫際」などを催し、地域の方々と交流することに努めている。また、隣接施設で行なわれる地域の方々による催しなどへ参加し交流を深めている。	地域のイベントにホーム側から参加する機会をつくり、交流していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として「転倒予防教室」の開催等に取り組んでいる。		事業所単独でも取り組めるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	去年11月に、法人内の自主評価を実施し運営推進会議にて報告を行った。今回の自己評価に関しては、各職員全員が個々に考え、それぞれが評価してみる事で事業所としての現状を把握し、改善に取り組んでいけるように努めた。		今回の外部評価を一過性のものと考えず、常に改善できることはないかを考え、事業所としてのレベルアップにつなげていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族・行政の職員・地域住民代表の方々に集ってもらい活動報告を行いアドバイスを頂いた。次回からは、会議前に入居者との面接を行い、生活の様子や意見、希望を聞き取ったらどうかとの案が出た。		運営推進会議の結果、地域の方々に認知症を理解してもらうための講演会や相談会開催を企画してはどうかとの案が出たので実現できるように努力したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と随時意見交換を行っている。		市町村担当者を通じて、他の事業所との交流を深めていけるように取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人で研修を行い、学ぶ機会を設け必要に応じて支援できる体制を整えている。		研修等学ぶ機会を設け、職員全員が理解できるよう取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し知識を深める努力をしている。また、日々の介護の中で見過ごされることがないように、常に情報交換を行ない職員間で確認しあっている。		研修等学ぶ機会を設け、職員全員が理解できるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を契約前に手渡し、一度目を通していただいた後、契約時に再度説明し、不安や疑問点を尋ね、説明し理解していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットに相談窓口の案内を掲示している。契約時、重要事項説明書に記載された苦情受付窓口(法人・市町村・県)の説明を行ない、理解してもらっている。法人では第三者委員を設置。日々の中で利用者からの意見、苦情、要望を聞き取るしくみが出来ている。個々に取り組み改善に努めている。</p>	<p>苦情・要望を聞き取る能力をスタッフが身につけ、穏やかに生活できるように支援する努力を続けたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理については、家族等代理人が面会に訪れた時に、それぞれ確認してもらっている。健康状態については、個々に、必要時は電話連絡を行なっている。</p>	<p>法人では「ふくろう通信」を年4回発行しているが、グループホームでも定期的にホームだよりの発行を行い日々の様子を伝えていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットに相談窓口の案内を掲示している。契約時、重要事項説明書に記載された苦情受付窓口(法人・市町村・県)の説明を行ない、理解してもらっている。法人では第三者委員を設置。面会時に職員より近況報告を行い、家族等からの意見をいただける機会を設けている。</p>	<p>家族等代理人から気軽に意見をいただけるようなシステム作り(家族会等)をしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度定例フロア会議を実施し、意見や提案を聞く機会を設け意見を反映できるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や通院、家族等代理人からの相談等要望があればできるかぎり調整を行なっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動等は最小限に留めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で年間を通じて研修を実施している。外部研修にも参加する機会・体制を整えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少ない機会ではあるが、同市のグループホームと意見交換し、運営に生かせるように取り組んでいる。また、法人内の研修・委員会活動へ参加しサービスの向上に努めている。		市町村担当者を通じて、他の事業所との交流を深めていけるように取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に個人面接を行なっている。日々の中では、相談しやすい雰囲気を作り、話をする機会を作っている。法人として働きやすい環境にするための苦情相談窓口を設置し、メールや電話などで相談できる体制をとっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課や目標管理を行ない、達成度等で個々の努力や実績を把握し評価することにより各自が更なる向上心を持って働けるように努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接等で利用者宅に訪問し、本人の希望や要望をできるだけ把握できるように取り組んでいる。		面接調書等を聞き取りやすく記入しやすいものを作り、面接時の情報を増やせるようにしたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接等で利用者宅に訪問し、家族の希望や要望をできるだけ把握できるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居を最終目標にするのではなく、その時々で最善であると思われる必要なサービスの紹介や説明を行なっている。(在宅での生活を継続するためのアドバイスをしたり、専門医を紹介した。)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態を考慮したり家族等の希望があれば、家族等の方も一緒に泊まっていたりすることなどを検討し、スムーズにグループホームでの生活を始めることができるように支援した。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で利用者のほうから教えていただく知識も多く、職員も学ぶ・聞く姿勢を忘れずに、一緒に過ごしている。		本人の立場に立って考える事を忘れずに、日々の暮らしを共に過ごしていくことを続けていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や電話連絡を行なうことで、日常生活状況を把握し共感してもらい、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事などに参加してもらえよう声掛けを行ない、共に楽しいひと時を過ごしてもらえよう努めている。昨年末には、家族等参加による忘年会を行なった。		利用者と家族等代理人のそれぞれの立場を考えながら、より良い関係が築いていけるよう取り組んでいきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、昔によく行った神社などに行く機会を設けたりするなど支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の個性や相性なども考慮し、レクリエーションや日常生活の場面ごとの支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今現在のところそういった事例はない。		必要とされるのであれば、関係を続け支援できるようにしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールとしてセンター方式を使用。本人の立場に立ったアセスメントを実施し、できるだけ本人の希望をかなえることができるように努め利用者本位の支援をしている。		今後も声を上げることが少ない利用者の希望・要望に気づいていくことが出来るようにセンター方式などを用いてアセスメントしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問することにより本人や家族等より生活歴・生活環境等情報を聞き取り、できるだけ本人の希望に応じた支援をしていけるよう努めている。入居後も本人や家族等からの新しい情報を集めスタッフ間で共有できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活状況を介護記録ソフトを使用しパソコンにて管理している。ジャンル別の検索等も可能であり日々の支援に役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員と意見交換を行い、センター方式(アセスメントツール)を使用し介護計画を作成している。		もう少しアセスメントに力を入れて、本人が望む生活を送れるよう介護計画を作成したい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン管理表にて管理を行ない、介護計画の期間及び利用者に変化が生じた場合は必要に応じて見直しを行なっている。		本人の立場に立って考え、その人らしい生活を送れるような介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況をパソコン管理し計画の見直しに活かしている。		もう少し詳細なことまで分かるような記録を残し、介護計画の見直しに活かしていけるように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じてできる限りの支援をしている。法人内の他事業所の利用を検討したが実施には至っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向があった場合は、必要に応じて各機関と協力しながら支援している。		本人の意向があった場合にはそうした連携がとれるように努めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の各事業所と連携をとりながら行事等の参加をしている。		本人の意向があった場合にはそうした連携がとれるように努めていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加してもらい、いつでも協働できる体制をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者から希望があれば、自宅で生活していた時と同じ主治医に引き続き診療してもらっている。また個人契約になるが、毎週定期的に往診してもらい、緊急時にはスタッフが相談・指示をいただける先生がかかりつけ医となり、本人・スタッフが安心して過ごすことができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時には市外の専門医の紹介を行い、付き添いなどの支援をしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している老人保健施設の看護師と連携を図っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在対象者はなし。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に終末期のありかたについて説明を行なっている。		早い段階で重度化した場合のありかたについて本人や家族等代理人や主治医と方針を共有できるように努めていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在対象者はなし。		今後の変化に備えて検討・準備をしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから別の施設に移る際は、家族と時間や方法の検討を行うことにより混乱なく行うことができた。行く先に情報の提供を行なったり、顔なじみの職員が面会に行くことにより、安心して新しい生活に移行出来た。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護規定作成。職員は入社時個人情報取り扱いに関する誓約書を提出。採用時及び毎年研修を行っている。個人情報の取り扱いに関しては利用者または家族等代理人に同意を得ており、それ以外の目的では使用していない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一方的なサービスを提供するのではなく、本人のその時々のお思いを引き出し希望に応じたケアができるように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員本位で動くような日課等の作成は行っていない。入居してから本人の希望や要望、生活のペースを把握し、個々の日課としてセンター方式シートに落とし込み、買い物や神社への参拝、散歩の援助といった利用者本位の生活の支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容・美容に関して、入居前から利用していた店を利用してもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご飯を炊く・お味噌汁を作る・食事の盛りつけ配膳・食器を洗う等の日常生活活動は、毎日利用者と一緒にいる。また、利用者と一緒にいるようなメニューのときの調理は、利用者と職員が一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>喫煙などは医師等からの制限がないかぎり本人の希望通りに楽しめるし、いつでも提供できるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居当初は排泄チェック表などを使用するなどして排泄のパターンを把握できるように努め、オムツ等の使用を減らすことで、より良い暮らしを送れるように支援している。上手く訴えられない方は、表情等で動きをつかみ対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はしておらず、本人の希望があれば、その時々に入浴してもらおうようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望通りの生活リズムをつくれるように心がけている。夜遅くまでテレビを見る方、浅眠の方等様々であるが、他の入居者に配慮しながら、一緒にお茶を飲んだりして寄り添い一人ひとりの生活習慣を受け入れるようにしている。		不眠の方に対しては、睡眠時間の確保に向け、様々な取り組みを行い、より良い生活を続けることができるよう支援していきたい。
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族等その人の希望・要望を聞き取り、掃除・洗濯干しや取り込み、編み物・裁縫・お菓子作り等継続して張り合いや喜び、そして役割のある生活を送ることができるように支援している。		日常生活の中でどうしても役割が少なくなってしまう男性の利用者にも張り合いのある生活を送ってもらえるように支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、自分で管理してもらい、買い物などの希望があれば支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、郵便局や買い物、ドライブや散髪等その希望の行き先にできるだけ外出できるように努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望の行き先があればできるかぎり行く事ができるよう支援している。また、年間を通じ行事として季節感を感じてもらえるような場所(お花見・森林浴・紅葉狩り等)へ出かける企画もしている。		家族等との関わりを増やすことができるような取り組みに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には電話回線・インターネット回線の接続が可能になっている。希望があれば電話介助やハガキ・切手の購入、郵便ポストに投函するために付き添う等している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしているが、それ以外の時間も面会してもらえるよう支援している。各居室で他の人に気兼ねなく面会できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成。身体拘束についての研修を繰り返し行い理解を深めている。現在は身体拘束を行っていない。		身体拘束は行っていないが、全職員が正しく理解できるように研修等に取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は玄関の鍵の施錠は行っていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に安全に配慮し所在確認を行ない、夜間は1時間に1回は所在確認している。離設の可能性のある方は早目に散歩に出かけるなど対応を行ない混乱を防ぐなどの対応を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせている。針等自分で管理できる方には持っていただきいつでも使えるようにしている。ライター、包丁は職員で管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対応マニュアルを作成。各事業所で緊急連絡体制を整備する等し、リスク管理に努めている。個々に発生した事故に関しては分析等行ない、今後の事故防止に努めている。		リスクマネジメントの理解を深めることができるよう研修等に参加し知識を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入社後救命救急講習に参加。新人研修で教育を行なっている。また、事故対応マニュアルをいつでも見れるところに置き緊急時対応できるようにしている。AEDを併設施設に常備している。		併設施設の看護師により定期的講習を実施するなどし、緊急手当や初期対応の方法を定期的に行い、全職員が緊急対応できるようにしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間を通じ法人で定期的な防災訓練を行ない非常時に備えている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	新たなリスクが考えられる場合は家族等に電話連絡や話し合いの場を持つなどして対応策を検討している。特に離設の可能性の高い利用者の家族等とは連絡をとり合い方針を検討した。施設間でも情報交換をおこない連携を取り合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝定期的なバイタルチェックを行なっている。異常がある場合は看護師又は主治医の指示を仰ぐよう努め家族等に連絡を行ない、必要時は受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに説明書を入れ、常時確認できるようにしている。服薬内容などが変わった場合は、一定期間バイタルチェック、様子観察の指示を出す等して変化に気づくようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の重要性を理解し取り組んでいる。また、利用者それぞれに合わせてヨーグルトの摂取や水分摂取量の管理など取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に一人ひとりの口腔状態に応じた支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所前に嗜好品など食べ物や飲み物の好みを聞き取りを行い、必要に応じて代替食を提供している。飲み込みが困難になられた方も、目の前で必要な物だけ刻んで提供する等の工夫をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成。職員は出勤時・退勤時にうがい手洗いの徹底を行い、面会者に対しては、各居室にて手洗いうがいを行ってもらっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンには常に清潔を保ち、担当者が出勤の度に冷蔵庫内の食品の賞味期限をチェックするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場に隣接しているため、出入りがしやすい。また、玄関前には植え込みをしており季節感を感じていただけるようしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間は、吹き抜けになっており、外の光を取り入れる工夫をしている。各居室の窓は大きく設計されており光を多く取り込めるようになっている。		利用者に馴染みの深いもので、自然に季節感を感じさせるような空間を作りあげたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性なども考慮し、テーブルをグループに分けたりするなどして思い思いに過ごせるような空間作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、自宅から使い慣れた家具などを持ち込めるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に冷暖房・換気口を完備している為個々に応じた温度調整が可能。冬場は各居室に加湿器を設置している。		
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活を送れるようにバリアフリー設計であり、フロアの壁・各居室のトイレ内・浴室には手すりの設置を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の「出来ること」「出来ないこと」をしっかり把握し、残存能力を活かせるように工夫。一人ひとりが混乱することなく、自分ペースで生活していけるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ミニ菜園・洗濯物干し場を用意しており、利用者と職員が一緒に利用している。		季節の野菜を作り、調理して味わってらえるようにしたい。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれた場所で、四季を感じてもらいながら生活してもらっている。
個々の思いを大切に、常に利用者本位の支援を行なえるように心掛けている。
隣設している介護福祉施設・介護老人保健施設と連携しながら利用者にあったサービスの提供を行っている